

若さの源は

いつも 夢と希望を失わず

現状に 満足せず甘えず

創意工夫する心である

アンジェラ・アキの『手紙 拝啓十五の君へ』の一節に「荒れた青春の 海は厳しいけれど・・・」とありますが、人は成長期には、周囲に矛盾を感じて苛立ち、こんなことで良いのか、という思いで過ごすことが多いものです。また、自分中心の考え方が強く、自分に対してよりも、周囲に対する不満や要求が強くなります。

若さも青春も、年齢的な時期を指す場合が多いですが、決してそうではなく、その人の心の在り方の問題、精神的な有り様が最も大切なことで、夢や希望や目標を持っていない人には、若さも青春もないものと考えます。

前向きに生きるということは、苦勞が多くあり、そのために悩むことも少なくありません。解決、改善するために思いを巡らし、より良い方法がないものかと苦心さんたんすることが心の活性化になり、年齢を超えた若さを造り出し維持していく事につながっていくものと思っています。

また、多くの人と交わり、多くの人の方考え方に触れ、多くの人から学んでいく事も「若さの源」であろうと考えています。

高齢になっても現役で働いている人には、元気があり、輝きがあります。人を納得させる何かを感じさせます。夢や希望や目的を持った生き方をしている人には、困難に負けない強さを感じます。

ただし、歳を重ねれば体力的な衰えによる悩みが生じます。十代の若い人たちが抱く心身の成長のアンバランスから生じる悩みとは異なるものですが、共通する部分もあると思っています。一方は衰えから生じ、他方は成長の過程から生じるものです。いずれの場合も、人として通過しなければならない道筋と言えます。

『手紙 拝啓十五の君へ』では、「いつの時代も悲しみを避けては通れないけれど 笑顔を見せて 今を生きよう」と結んでいます。

